

CSR活動アクションプラン

東洋アルミグループでは、創立100周年の2031年に向けて策定した東洋アルミグループ・サステナビリティ・ビジョンを念頭に置き、5つのマテリアリティ（CSR重要課題）について、目標を設定して取り組んでいます。2023年度の活動実績は、下表の通りです。

次頁以降では各マテリアリティごとの具体的な取り組み内容を掲載しています。2031年度の長期目標達成に向け今年度も活動を継続していきます。

マテリアリティ（CSR重要課題）		主なSDGsとの対応関係	主な活動項目	2023年度の活動実績	長期目標（2031年度）
1	 未来を創る イノベーション		既存事業：SDG3、7、9、11、12に 貢献する製品売上向上	SDGs貢献製品売上金額2019年度比7.7%増加	SDG3、7、9、11、12に貢献する 製品売上高3倍に増加（2019年度比）
			新規事業：第4の柱（事業）を創出	事業化1件に向けて実績を積み上げ中	事業化2件
2	 環境保全		事業活動からのCO ₂ 排出量削減 （2013年度比）	2013年度比23.9%削減	40%削減（2013年度比）
			太陽電池の リサイクルシステム構築	太陽電池リサイクル業界の動向調査・ リサイクルビジネスモデルの検討	太陽電池リサイクルシステムの構築、 リサイクル開始
			アルミニウムの リサイクルシステム構築	一部のお客さまの余剰材の再生実施 加工屑からアルミニウムを抽出する技術を開発中	（構築したシステムによる） アルミニウムリサイクルの一般化
			紙容器の リサイクルシステム構築	試作検証を重ね、2024年3月末に リパルプ専用パイロット設備の導入完了 今後は当社製品屑から原紙を作り商品化を目指す	（構築したシステムによる） 紙容器リサイクルの一般化
			事業活動からの 産業廃棄物削減	前年度比12.6%削減	最終埋め立て産業廃棄物量ゼロ （全てリサイクルでゼロエミッション）
3	 多様な 人財の活躍		女性採用比率の向上	新規採用における女性比率60%	新規採用における女性比率30%
			シニア人財の活躍	段階的な定年引き上げの検討 再雇用後の処遇見直し検討	70歳定年制を中心とした制度の整備完了
			自律型人財の活躍	新人事制度にて、ライン職群評価への展開	自律型人財の育成の発展的な継続
			健康経営の推進	各拠点による健康イベントの実施	健康経営の発展的な継続
4	 品質と安全		重大品質クレームの削減	重大品質クレーム0件	重大品質クレームゼロ
			休業災害、不休業災害、 火気事故災害の削減	休業災害3件、不休業災害6件、火気事故5件 微傷災害15件（前年度比-6.25%）	休業災害ゼロ、不休業災害ゼロ、 火気事故災害ゼロ、微傷災害半減（前年度比） 重点取組事項：回転物関連・運搬具・ 場内転倒事故対策の強化
5	 ステークホルダー との協働		さまざまなステークホルダー （地域、顧客、従業員など）との対話を 通じて信頼度・満足度の向上	有識者ダイアログ1件実施 メディアやWebでの情報発信や従業員参加型の社内広報に注力	さまざまなステークホルダーと 良好な関係を築き、 課題解決の一翼を担っている

すでに顕在化している社会課題や潜在的な問題、市場の環境変化に対応するため、先端技術本部および新事業創造部門では、対象を「既存市場」「新市場」「次世代市場」の3つの市場に分類し、それぞれにリソースを投入して研究開発および事業化に取り組んでいます。自社だけでは解決が難しい場合は、国内外を問わず、ベンチャー企業や大学、研究機関などをパートナーとしてアライアンスを結ぶオープンイノベーションを積極的に推進しています。

私たちは、「共有価値の創造(CSV)」の観点を取り入れ、ステークホルダーとのコミュニケーションを深め、東洋アルミグループと社会との共有価値の創造を実現できる開発を行います。また、アルミニウムをベースにしながらもアルミニウムにこだわらず新しい発想で世界をリードしていくことを目指します。

C S R 重要課題 1

未来を創るイノベーション

環境保全に役立つ 製品開発で社会に 貢献する

林 環境保全など社会課題の解決に貢献することは、先端技術本部の最重要テーマです。私が取り組んでいる研究開発テーマでは自動車製造時のCFP・VOC削減を目指した新製品開発を行っています。環境保全へのアプローチは非常に広範囲であり、社会のトレンドやお客さまの思いに寄り添った研究開発が必要です。そのために営業をはじめ他部門との情報共有を大切にしています。

木野 知的財産チームは特許などの知的財産権による保護や活用のための管理を担当し、例えばCO₂排出量の削減などサステナビリティにつながる製品の開発や販売の際に必要なってくる他社・他機関との技術契約の締結を支援することで、社会に貢献しています。また、近年は脱プラスチック

を掲げた紙使用の包装材特許が増えている印象ですが、特許調査により社会トレンドも把握できるので、こうした調査結果を研究開発や営業メンバーと共有して製品開発をサポートしています。

久高 社会課題の解決が私の使命で、担当しているコンパウンド事業では、樹脂にさまざまな機能を付加することでリサイクルしやすい樹脂や生分解性樹脂を開発したり、また農業向けの害虫忌避製品などを開発したりし、環境負荷の低減や健康な暮らしに貢献しています。林さんが言われたように環境負荷低減へのアプローチはコンパウンド事業だけでも、生分解性やリサイクル、バイオマスなど多様です。社会課題を解決し、お客さまのニーズに合致した環境貢献製品の提案を心掛けています。

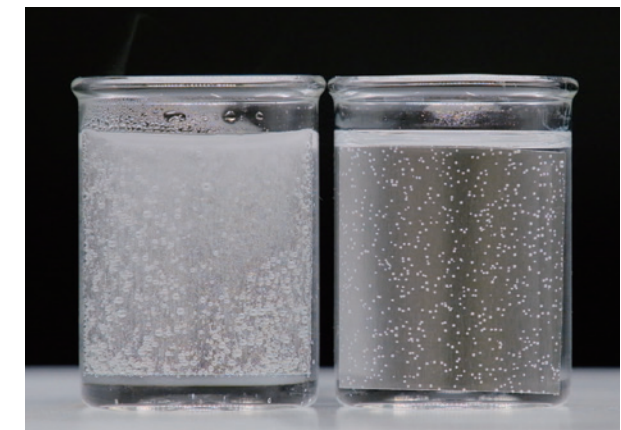
箔事業本部
加工品営業ユニット
西日本チーム
久高 陸

先端技術本部
研究開発支援ユニット
知的財産チーム
木野 美保

パウダー・ペースト事業本部
研究開発ユニット
研究チーム
林 悠也

溶けるアルミ箔／TOKELUMI®

「環境に優しいアルミ箔」をコンセプトに開発した『TOKELUMI®』は、食塩や酢酸などの環境負荷の少ない水溶液で溶解できる特徴を有しており、現在はこの特徴を活かせる用途を探索中です。右の写真はアルミ箔を40℃の食塩と酢酸の混合水溶液に浸漬した結果です。一般のアルミ箔では変化がありませんが、『TOKELUMI®』は浸漬から60分後に激しく泡を出して溶け出す様子が見られます。



TOKELUMI®

一般のアルミ箔

リサイクル技術／ダブルサイクル™

包装などの用途で使用されるアルミニウムと樹脂の貼り合わせ箔は剥離が困難で、その多くは燃えるゴミとして処分されています。当社ではこの現状を課題と捉え、リサイクルを可能にする剥離技術の開発を進めています。ラポレベルではすでに分離に成功しています。今後は実用化に向けて、課題を一つひとつ解決しながら、さらに技術を高めるための研究を進めていきます。



アルミニウムと樹脂の貼り合わせ箔

樹脂

近赤外線反射黒色メタリック顔料

近赤外線反射黒色メタリック顔料は、暗色系塗料に含まれるカーボンブラックとよばれる炭素の微粒子を使わないことで近赤外線を反射する特性を持つ黒色のメタリック顔料です。あらゆる物質は太陽光エネルギーを吸収することで発熱しますが、カーボンブラックは全帯域の光を吸収してしまうことにより空調効率を低下させたり、赤外線を利用した自動運転技術が適用できないなどの問題があります。近赤外線反射黒色メタリック顔料ではカーボンブラックを不使用としていることなどから、これらの問題解決に寄与することが見込まれており、環境面や自動車の安全性向上など社会問題解決への貢献が期待されます。



カーボンブラック使用顔料

近赤外線反射黒色メタリック顔料
メタリックの意匠性を保ち、特性を保有

私たちは、製品による環境への貢献の他に、事業活動における環境負荷低減の側面からも環境保全に取り組んでいます。事業活動では、製造における各工程でのエネルギー使用量の削減や再生可能エネルギーの活用、廃棄物の3R*推進に取り組んでいます。また、生産拠点を中心とした15拠点ではISO14001の認証を取得しています。環境マネジメントシステムの効果的な運用を通じて、環境トラブル発生防止や各種法令の遵守に加え、環境負荷の低減を図り、持続可能かつ地球環境と調和した経営活動を推進します。

*3R:リデュース・リユース・リサイクル

CSR 重要課題 2 環境保全

全製造所で連携しCO₂排出量削減に取り組む

松葉 八尾製造所は長年にわたり省エネルギー活動に取り組んでおり、2023年度も焼鈍炉や脱臭装置の運用見直しなどで省エネルギーを推進しました。しかし、東洋アルミグループのCO₂排出量削減目標である2031年度40%削減(2013年度比)を達成するためには継続して新しい対策が必要です。省エネルギー活動は、未来を担う子どもたちへの貢献であるとともに、エネルギーコストの削減で会社の利益にも貢献できます。それが私たちの大きなモチベーションになっています。OKR共有会や製造所を超えた横串活動で各製造所の設備スタッフや製造スタッフが密接に連携し、アイデアを共有し、助け合いながらCO₂排出量削減とコスト削減に取り組んでいます。山本さんとは同期であり相談しやすく、省エネルギー活動についてよく議論しています。

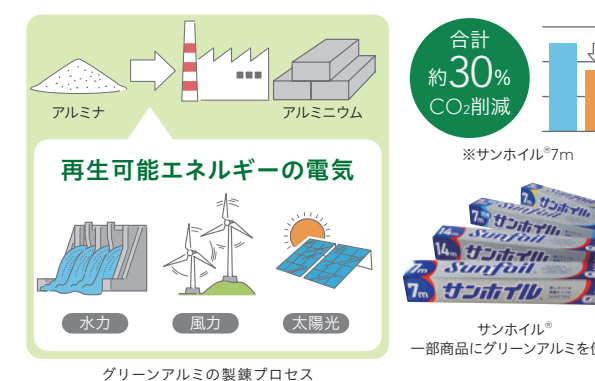
山本 2023年4月に茅ヶ崎製造所へ赴任後すぐに製造所内巡回パトロールを行い、必要のない時間帯の空調や換気設備を停止するなどの省エネルギー施策を行いました。その結果、年間約600トンのCO₂排出量の削減を達成できました。茅ヶ崎製造所2工場のうち、これまでは矢畑工場で省エネルギー活動を行ってきましたが、2024年度からは萩園工場にも活動を展開していきます。さらに、以前勤務していた群馬製造所で大きな省エネルギー効果があった印刷機の乾燥オープン給排気最適に取り組んでいます。茅ヶ崎製造所は生産品種の構成の変更があったことから、今後8年間でCO₂排出量を40%削減しなければなりません。非常に高いハードルですが、諦めるのではなく「新たな歴史をみんなで創るんだ」と、製造所が一丸となって挑戦していきます。

箔事業本部
八尾製造所ユニット
設備チームリーダー
松葉 真

箔事業本部
茅ヶ崎製造所ユニット
設備チームリーダー
山本 大介

国内初！グリーンアルミを使用したアルミホイル サンホイル®

東洋アルミエコープロダクツ(株)では、サンホイル®ブランドにおいて、再生可能エネルギーを活用して製造されたアルミニウム原料「グリーンアルミ」の使用を2023年10月より開始しています。これにより、従来品と比べて、原材料調達から製造まで一連の工程でのCO₂排出量を削減しています。今後もサンホイル®ブランドは、いつでも・どこでも・誰でも心地よく使うことができるスタンダードブランドとして、使いやすさと品質、そして環境にこだわり続けます。



容器変更による危険廃棄物発生量の低減

近年、中国の環境保全政策がより厳しくなり、危険廃棄物処理の条件も引き上げられました。そこで肇慶東洋鋁業有限公司では、シリカ処理アルミペースト製品で使用する原材料添加剤のガラス瓶(500ml/本)は、使用後に危険廃棄物処理を施す必要があります。しかしこれを繰り返し使用できるプラスチック容器(25kg/容器)に変更したことにより、2023年度の危険廃棄物発生量は年間目標の12.2kg/tを大きく下回る8.12kg/tまで削減させることができました。



チーム対抗節電イベント

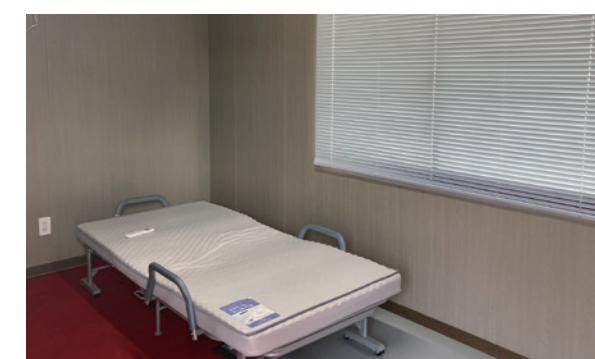
従業員一人ひとりの省エネルギー意識向上を目的として、日野製造所では、全従業員が気軽に参加できるチーム対抗形式での節電イベントを開催しました。イベントでは省エネルギー提案やエア・窒素漏れ箇所発見などを点数化して競い、最後には表彰も行いました。イベントを通して従業員一人ひとりの省エネルギー活動への意識を向上させるとともに、これらの活動がCO₂排出量の削減に貢献できるという達成感につなげることで、省エネルギーに対する「難しい」「面倒だ」という意識の払拭に努めました。



節電イベントで電力使用量が削減した窒素発生装置

運送会社とのCO₂排出量削減活動

業務委託を行っている運送会社では、大阪を出発して関東地区にある当社の拠点を複数回り、また大阪に帰還するという長距離路線を所有しています。これらの路程を運行の中で、ドライバーの休憩時などのアイドリングによるCO₂排出量は、2.5t/月であることが分かりました。アイドリングの削減を図るため、当社では各拠点にドライバーの休憩所を設置し、2024年3月1日より稼働を開始しました。これらの取組みを通じ、年間で約30tのCO₂排出量を削減することを目標に掲げています。



群馬製造所の休憩所

私たちは、人を大切にする企業として従業員の多様性・人格・個性を尊重し、「多様な人財の活躍」を目指しています。急速にグローバル化が進む事業環境の中で、海外人財の採用を推進し、長期留学・短期留学制度をはじめ各種教育プログラムを通してグローバル人財の育成を行っています。国内の少子高齢化による労働力人口の減少に対しては、育児休業・育児短時間勤務制度の充実や職場のバリアフリー化への検討を図るなど、性別や障がいの有無に関係なく力を発揮しやすい環境を整えています。他にも、女性のキャリア支援を行いプロフェッショナル職群へのコース転換も進めています。また、働き方改革に向けて、会議の削減と効率化・新たなITシステムの活用によるコミュニケーションの活性化を通じた年間総労働時間の削減、選択労働時間制や在宅勤務の導入などに注力しています。今後も従業員一人ひとりがライフワークバランスを実現し、多様な人財が意欲を持ってその能力を遺憾なく発揮できる環境を整えていきます。

CSR 重要課題 3

多様な人財の活躍

多様な人財が イキイキと働く 環境づくりに向けて

倉橋 2024年卒の大学院・大学の採用数で女性が初めて男性を上回るなど、女性活躍やグローバル人財の採用は着実に進展しています。自律型人財の活躍を目指した人事制度改定は3年目に入り、若手・中堅従業員の早期の抜擢などで成果が出てきています。一方で、シニア人財の活躍や障がい者雇用の促進はまだ課題がありますので、2024年度も継続して改善に取り組んでいきます。また、システム部門と連携したITリテラシーに関するリスクリグや、特性や資質に着目した新たな人事マネジメントシステムなど、誰もがイキイキと働きやすい環境整備をさらに進めます。

磯道 能力評価の人事制度は他社に比べても先進的で、若手従業員も積極的に発言ができ、提案が認められれば仕事も任せてもらえます。私の場合、採用業務で新しい就業体験制度の創設を提案し、研究や生産技術部門と連携しながら実施に向けて取り組んでいます。若手世代にとって、ダイバーシティは学生の時に授業で学んだ人も多く、身近な問題です。多様な価値観があるからこそ、多彩なアイデアが生まれます。ダイバーシティを推進し多様な人財がそれぞれの得意分野で活躍することができ、全員が補完性を持つような組織を実現していきたいと思います。

コーポレート部門
人事ユニット人事チーム
磯道 想

コーポレート部門
人事ユニット
人事チームリーダー
倉橋 亮

ワーキングママパパ座談会開催

東洋アルミグループでは、子育て世代にも働きやすい職場づくりを目指し、さまざまな取り組みを進めています。2024年3月には、子育てと仕事の両立に奮闘する7名の従業員による座談会を開催し、仕事と育児の両立に関する悩みや経験を共有しました。座談会では「わかるわかる！」と参加者同士が共感したり、励まし合ったりする場となり、笑いあり涙ありの温かい

時間となりました。

座談会の内容を社内報にも掲載することで、産休・育休を取得する予定がある従業員や、育休を取得中の従業員の不安を払拭したいと考えています。これらの取り組みを通じて、子育てをしながらでも安心して働ける職場環境を整え、従業員一人ひとりが輝ける職場づくりを目指していきます。



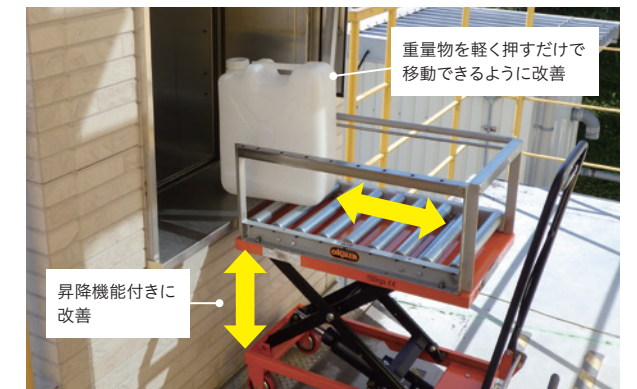
ワーキングママパパ座談会風景



社内報「ALWAYS」4月号

女性従業員の活躍に向けて

製造事業所の製造ラインでは、これまで男性従業員が多数を占めていました。しかし女性の活躍が推進される中で、当社グループとしても女性従業員の活躍の場を広げるため、重量物運搬方法の改善や、休憩所・トイレ・更衣スペースの改善など、女性も働きやすい職場環境の整備を行っています。他にも、作業手順書の動画化や多言語対応など、シニア従業員や外国籍従業員などの多様な従業員が活躍できる環境づくりを目指しています。



重量物運搬の改善

滋賀県女性活躍推進企業に認定

日野製造所では、2023年に初めて女性のライン職を採用しました。これをきっかけに、事業所において女性がイキイキと働くことができ、充実したキャリアを積み上げられる企業のシンボルになるという決意を込め「滋賀県女性活躍推進企業認証制度」に申請し、一つ星企業に認定されました。今後も女性をはじめとし、多様な人財が活躍できる職場づくりを目指します。



一つ星企業認証

私たちは国内外のグループ会社16拠点でISO9001の認証を取得し、継続的に品質改善に取り組んでいます。安全面では、各生産拠点に安全衛生事務局を配し、グループ安全統括チームがそのマネジメントのセンターとなり、本社と生産現場が一丸となって労働安全衛生活動に取り組んでいます。また、私たちがサポートいただいている委託先の品質・安全に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を尊重しつつ、品質パトロールや貸与設備の安全立会などを積極的に支援することで自社グループ生産拠点外での事故・トラブルの未然防止にも努めています。これからも私たちはお客さまから一層信頼いただける企業を目指して、社会規範を遵守し、さらなる品質・安全の向上に努めていきます。

C S R 重要課題 4

品質と安全

リスクを未然に 摘み取る “攻めの安全対策” を推進

猿渡 会社存続に重大な影響を与える重篤災害・事故リスクを撲滅するという恒久的なテーマのもと、2023年度は事業所トップのリーダーシップを活かした安全活動の推進に注力してきました。2024年度は変化点・変更点でのリスクに着目し、チームリーダーなど各職場の中間層の安全意識をさらに向上させ、自ら安全活動を推進していけるような体制づくりに取り組んでいます。東洋アルミエコプロダクツ(株)滋賀工場は佐藤工場長を中心に安全活動に積極的に取り組み、無休業災害日数3,000日を達成しています。

佐藤 無休業災害日数3,000日は、あくまでも通過点であり安全対策はさらなる継続が必要です。特に、滋賀工場の主要設備であるプレス機は、事故を起こしてしまうと重篤事故につながりかねません。また、近年アルミ製品よりも紙製品の生産が増えていますので、加熱工程における火災のリスクが増大しています。安全・安心に働ける職場づくりを推進することは、工場運営の大前提だと認識しています。2024年度の重点テーマである変化点・変更点のリスクでは、作業者が変わる、取り扱う素材が変わる、設備が経時劣化することも該当します。今後ともグループ安全統括チームや他事業所と連携した活動をさらに推進し、従業員一人ひとりがリスクを認識し、事故を未然に防ぐ“攻めの安全対策”を進めていきます。

グループ安全統括
チームリーダー
猿渡 昌隆

東洋アルミエコプロダクツ株式会社
生産ユニット滋賀工場長
佐藤 圭

安全 過去の重篤災害風化防止活動

社長直轄のグループ安全統括チームでは、死亡災害や失明、欠損など残存障害を伴う労働災害いわゆる「重篤災害」に関するリスク低減に力点を置いて活動しています。また、不幸にして重篤災害が発生した場合、発生後間もないうちは職場の関係者が一丸となって「二度と同じ災害を発生させてはならない」という強い覚悟を持ち、各種対策を立案・実施するものです。しかし時間が経過するとその事故を直接的に知る従業員が入れ替わることもあり、その覚悟は忘れ去られ、事故発生後に確立された対策は形骸化するというリスクがあります。形骸化した対策では同様の事故を再発させてしまう事態を招きかねません。当社では労働災害の風化防止の一環として、過去の重篤災害の事例を全ての従業員に共有するための動画作成を進めています。2023年度には、プレス挟まれ事故、全身火傷、酸欠事故、火災

の事例に関する動画作成を行いました。動画内では、事故発生時の状況をよく知る従業員にインタビューを行い、当時の状況や心境などを語っていただきました。動画を見た従業員からは「事故により辛い思いをしたくない・誰にもさせたくないと思った」「二度と重篤事故を起こしてはならないと感じた」などの感想が寄せられ、改めて安全に対する意識を強めるきっかけとすることができました。安全への意識を高く保ち続けさせるため、各事業所では過去の災害事例を振り返る行事や、事故後の対策が現在も継続されているかどうかの確認なども行っています。2024年7月には、社長が自ら災害現場に赴き、労働災害により亡くなられた従業員に追悼の意を表すとともに二度と悲惨な災害は起こさせないという誓いを立てました。私たちは全社一丸となって、一人ひとりが重篤災害の未然防止に対する強い気持ちで、安全を守り抜くための努力を続けていきます。

品質 安全と品質は会社の命

「安全と品質は会社の命」私たちはこのスローガンのもとで重大品質事故ゼロを目標に掲げた事業活動を推進しており、2023年度もその目標を達成することができました。これは、過去の重大品質事故を教訓として変更点管理に注力してきたことや、再発防止策の強化活動が実を結んだ結果だと考えます。変更点管理を確実なものとするためには、変更前後の品質に有意差があるかどうかを見極める必要があります。必要な品質データの収集はもちろんのこと、得られた情報を統計的に検証・分析できる人財の存在は会社の生命線であり、私たちは計画的な育成を進めてきました。2024年度も引き続き対象者を拡大させながら統計的品質管理手法を理解できる人財の育成を強化していきます。

また、再発防止策の要は不具合の真の原因を突き止める是正処置です。そのために私たちは現場・現物・現実の“三現”をもとに事実を把握し、原理・原則で要因を解析する習慣を身につけられるよう不具合発生部門に対する指導および支援を行っています。効果的な是正処置の記録は会社の財産になることを忘れず、今後も5ゲン主義で是正処置のレベルアップに努めていきます。製造業を営む上で重要な製品の品質と従業員の安全を守るのは役員をはじめ、全ての従業員一人ひとりの意識です。お客さまにご安心いただける製品をお届けするため、私たちはこれからも全社一丸となって品質意識の醸成に努め、コンプライアンス遵守を徹底していきます。

TOPICS

東洋アルミグループでは楠本社長の思いが込められた「安全と品質は会社の命」という言葉をグループ共通のロゴマークとして策定しました。安全と品質について社長の思いを短い言葉で表現し、ロゴマークに落とし込むことで、従業員の目に留まりやすく、親しみを持てるよう工夫しました。ロゴマークを資料などにも付け加えることで、従業員が目に触れる機会を増やし、社長の思いをより浸透させていきたいと考えています。



私たち東洋アルミグループは、生産活動や雇用を通して地域の社会経済活動に貢献しています。また、地域社会と協働して、文化事業への支援や環境保全活動への協賛、NPO法人を通じたフードバンクへの協力や支援などを積極的に行っています。

さらに学生の企業訪問受け入れを通じて次世代育成への貢献にも力を入れています。その他、従業員による地域の清掃ボランティアや、自然災害により被災された地域への支援活動など、さまざまな活動を通じて今後も積極的な取組みを推進し、持続可能な社会へ貢献することで、さらなる企業価値の向上を目指します。

C S R
重要課題 5

ステークホルダーとの協働

多彩な活動で 従業員・お客さまとの 対話を促進

娜卡 注力している社内発信では、社内アンケートや外部評価をもとに継続的に社内報のブラッシュアップに取り組んでいます。そして社長の従業員向け動画の生配信「みんなで創る 社長四半期報告」では若手の登場や事業所からの配信などさまざまなアイデアで魅力アップに取り組んでいます。社外向けの発信ではアルミホイルの製造工程をアニメーションで紹介するなどコンテンツを充実させて他、中学生・高校生の企業訪問を積極的に受け入れています。2024年度内にXの公式アカウントを開設し、当社の魅力や取組みなどを発信していく予定です。多彩な広報活動で東洋アルミグループのファンをさらに増やしていきます。

和田 日用品事業の東洋アルミエコプロダクツ(株)は、消費者との対話を大切にしています。お客様相談室に寄せられたご意見・ご感想は既存製品の改良や新製品の開発につなげています。マーケティングチームにおいては、当社製品をご愛顧いただいているお客さまのコミュニケーションサイト「おたのしみCLUB®」の立上げを行ったり、オンラインで対話する「ファンミーティング」を開催しています。お客さまが知りたい、「こんな商品があったらいいな」の思いをキャッチし、それにお応えするべく、日々の製品づくりに取り組んでいます。お客さまとの対話で蓄積したノウハウや知見を、今後は社内コミュニケーションにも活かしていきたいと思っています。

東洋アルミエコプロダクツ株式会社
コーポレート統括ユニット
総務・リスク管理チーム
和田 彩美

コーポレート部門
総務ユニット
法務・広報チーム
娜卡

東洋アルミの森～森林保全活動～

東洋アルミニウム(株)と東洋アルミエコプロダクツ(株)は、滋賀県の綿向山を中心に森林管理を行う綿向生産森林組合を介し、滋賀県と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結しました。具体的には「東洋アルミグループ みんなで創る びわ湖 未来の森」と名付けた森をフィールドに年2回の森づくり活動を行っています。2023年度は7月と11月に森づくり活動を行い、累計49名の従業員が参加しました。この活動を通して、企業としての環境保全貢献と従業員の環境意識向上につなげていきます。



森づくり活動の様子

アルミニウム自由研究サイト更新

東洋アルミニウム(株)が運営する自由研究サイトは、2017年の開設以降、主に夏休み期間を中心に高い注目を集めています。2024年はさらに内容を充実させ、アニメーションを用いてアルミ箔の製造工程を分かりやすく解説するなどの新コンテンツを公開しました。当サイトをきっかけに、子どもたちがアルミニウムの特性や身近にある製品に対して興味を持ち、さらには科学に対する探究心を育むことを目指しています。



アニメーションで「圧延工程」を説明

学生・生徒・児童の企業訪問受け入れ

当社では、製造所やオフィスにおいて学生・生徒・児童の企業訪問受け入れを行っています。八尾製造所では、近隣の小中学生やその保護者を対象に、当社の環境に対する取組みや当社技術について紹介したり、工場見学を通して実際の製造工程を体感していただいています。日野製造所では、地元中学生の職場体験に協力し、製造現場での軽作業体験を実施しています。また、大学生の実習受け入れも行っています。他にも、大阪オフィスでは、当社の概要や技術説明に加え、実験形式で撥水包材技術を実感していただきました。これらの体験を、将来の職業選択を考える上での一助にしてほしいと考えています。今後も学生・生徒・児童の企業訪問を受け入れ、次世代へモノづくりの魅力を広めていきます。



生徒の当社訪問風景